

公益財団法人 全国商業高等学校協会主催・文部科学省後援

第60回 ビジネス文書実務検定試験 (30.7.1)

第2級

速度部門問題

(制限時間10分)

試験委員の指示があるまで、下の事項を読みなさい。

〔書式設定〕

- a. 1行の文字数を30字に設定すること。
- b. プロポーショナルフォントは使用しないこと。

〔注意事項〕

1. ヘッダーに左寄せで受験級、試験場校名、受験番号を入力すること。
2. 問題のとおり、すべて全角文字で入力すること。
3. 長音は必ず長音記号を用いること。
4. 入力したものの訂正や、適語の選択などの操作は、制限時間内に行うこと。
5. 問題は、文の区切りに句読点を用いているが、句点に代えてピリオドを、読点に代えてコンマを使用することができる。ただし、句点とピリオド、あるいは、読点とコンマを混用することはできない。混用した場合はエラーとする。
6. 時間が余っても、問題文を繰り返し入力しないこと。

第60回 ビジネス文書実務検定試験 (30.7.1)

第2級 速度部門問題 (制限時間10分)

食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられている食品のことである。我が国では年間約646万トンにもなり、世界の食糧援助量の約2倍に匹敵する。この量を日本人の一人当たりに換算すると、毎日おにぎり2個分を捨てていることになる。	30 60 90 112
この食品ロスは、約半分が家庭から発生している。主な原因としては、期限切れや鮮度の低下による廃棄だ。ほかにも、調理による過剰な除去や食べ残しがある。国の調査によると、家庭の生ごみの20%ほどは手つかずの食品であった。	142 172 202 221
近年、NPOやボランティア団体がフードバンク活動を行っている。これは、企業や個人から余剰食品の寄付を受けて、福祉施設や必要とする人々に無償で提供するものだ。この活動が広がれば、捨てられるはずの食品が有効に活用されるだろう。	251 281 311 334
食品の大量廃棄は、単に「もったいない」だけではない。処分をする際に、焼却や埋め立てにより、環境問題を引き起こすこともある。食品ロスの削減には、買い過ぎないことや食材を使い切る工夫が必要であろう。一人ひとりが意識的に行動して、無駄のない社会を築きたい。	364 394 424 454 460